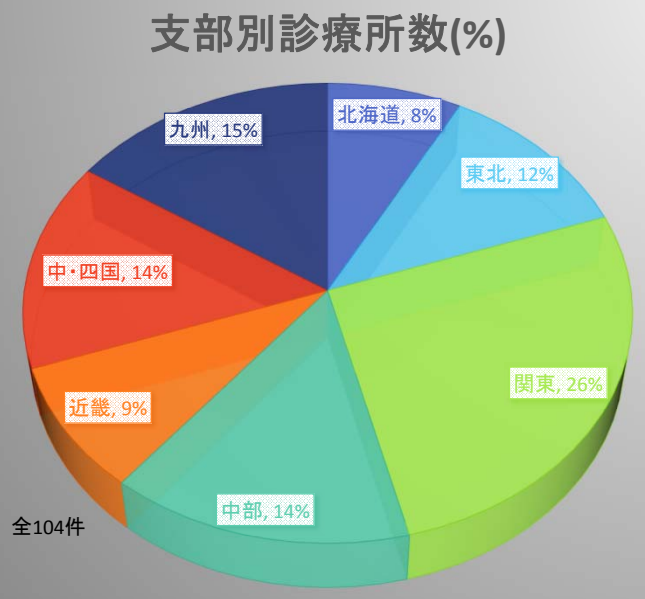
支部別回答数

全104施設より回答を頂いた。
その支部別分布は右図の如くである。

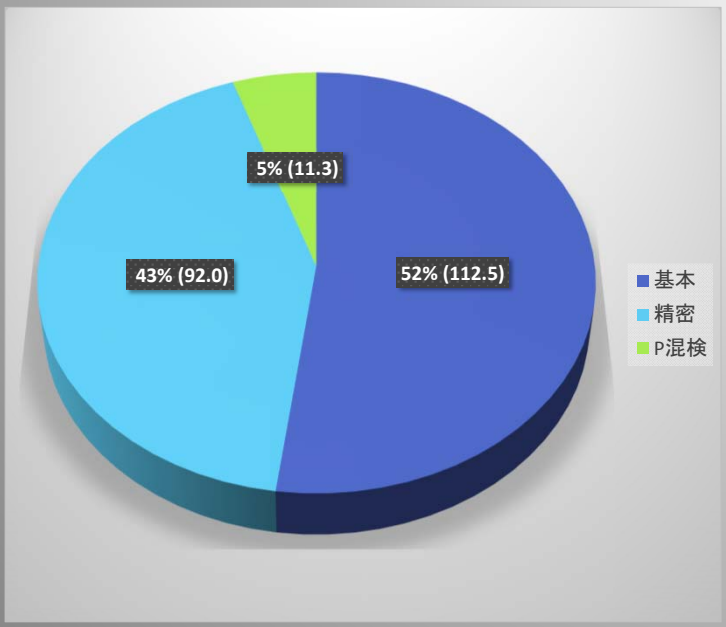


保険請求件数

300件以上の施設が全体の65%を占め、全国平均（約200件）に比べ、多くの請求件数となっている。

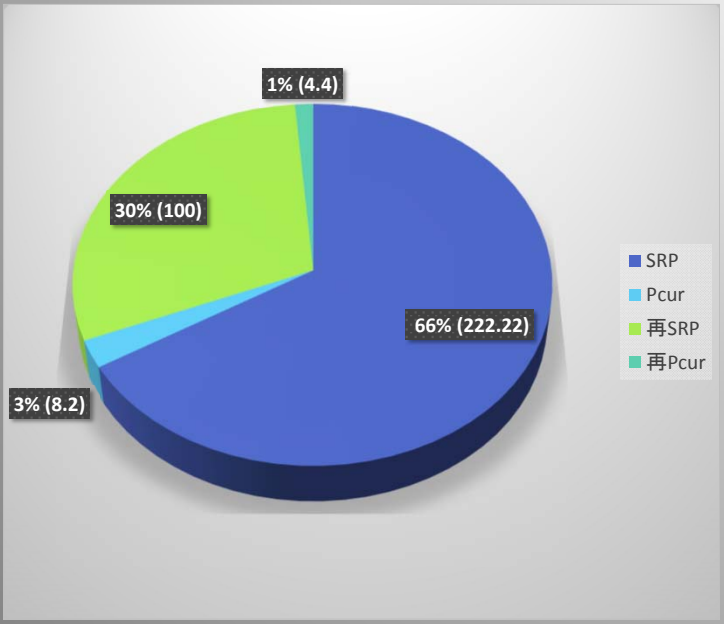
歯周病検査頻度

精密検査の割合が大きく、専門的治療を行う当学会会員の特徴を顕していると考えられる。



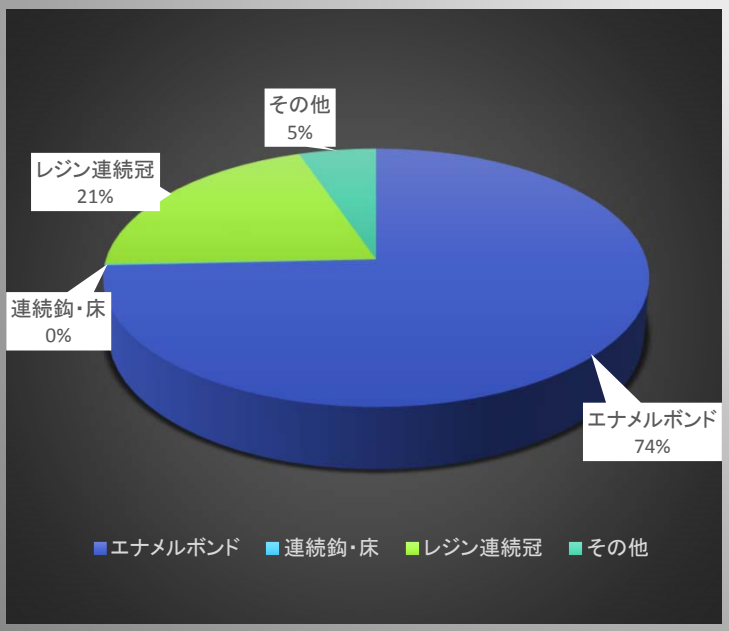
歯周基本治療の分布

SRP、再SRPで全体の92%を占めている。今後は施術者が誰なのかの調査も必要ではないかと考えている。



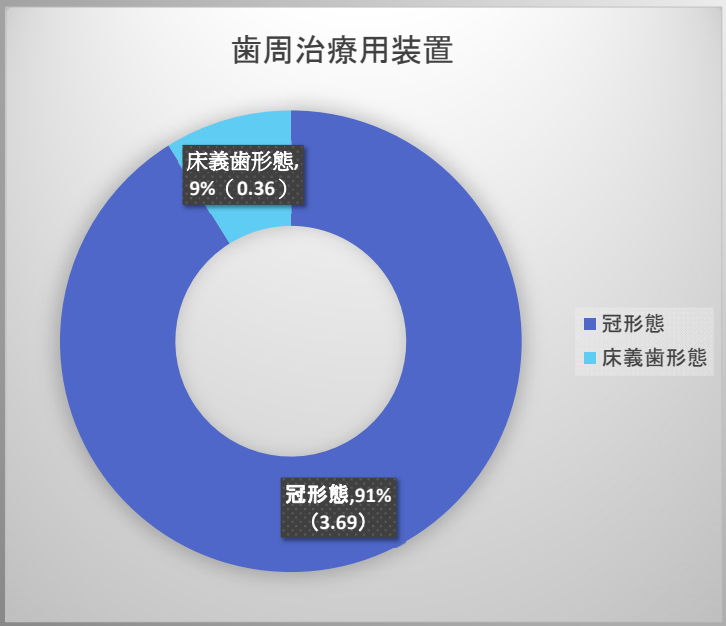
暫間固定

エナメルボンドシステムが74%と圧倒的であった。



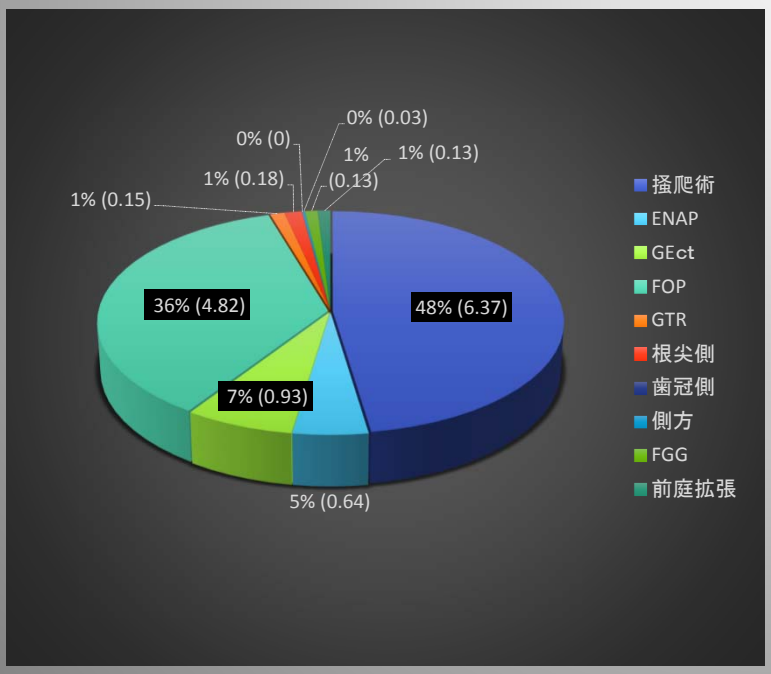
歯周治療用装置

冠形態のものがほとんどで、91%であった。暫間固定とともに今後の対応の検討が必要な項目と考えられる。



歯周外科

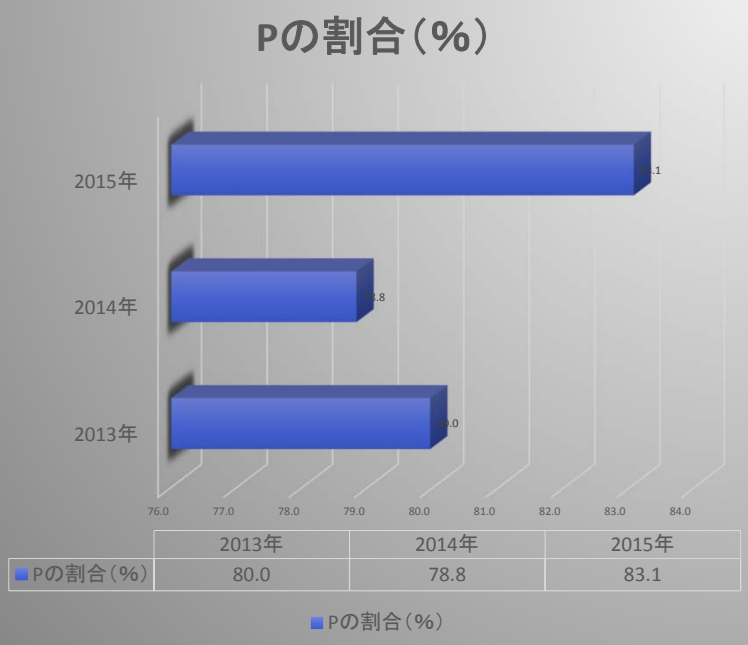
歯周外科については掻爬術とFOPで84%を占めており、歯肉歯槽粘膜形成術（歯肉弁根尖側移動術、歯肉弁歯冠側移動術、歯肉弁側方移動術、遊離歯肉移植術、口腔前庭拡張術）は、4%の頻度であった。



2013・2014・2015 3年間の比較

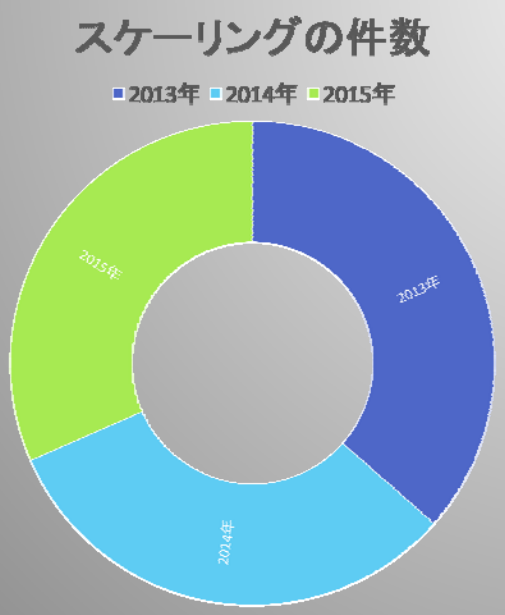
P病名

3年ともに80%前後の例でP治療が行われています。



スケーリングの頻度比較

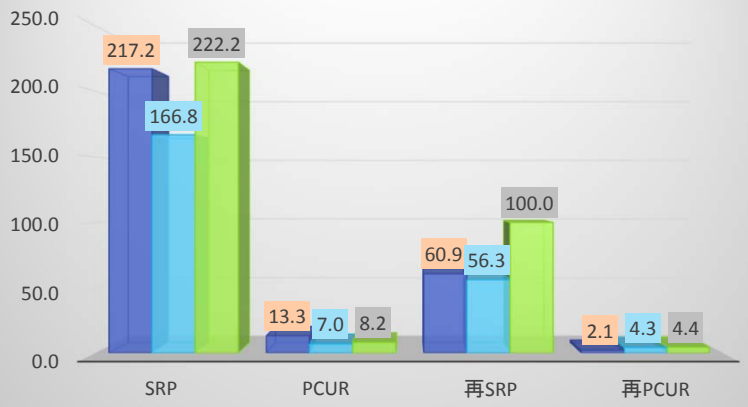
P治療の頻度とスケーリングの頻度は、当然ながら相関している。



一施設につき

SRP・Pcurの比較

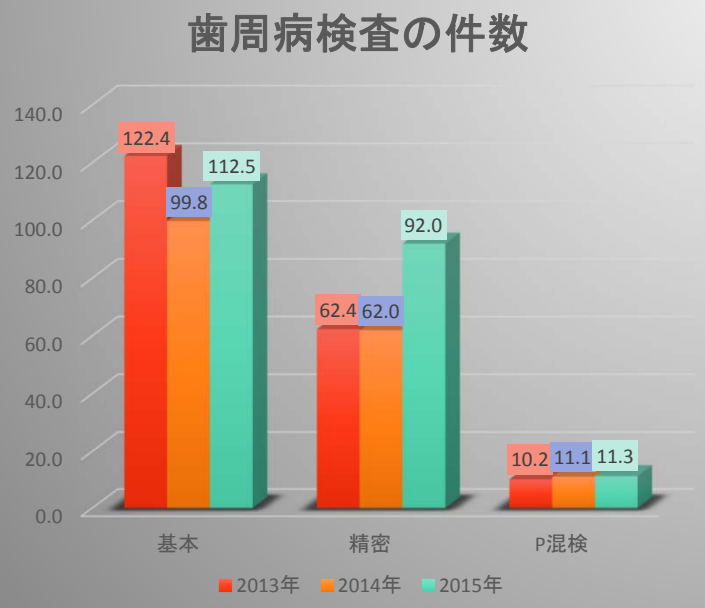
SRP・再SRPの頻度がいずれの年も高く、20:1程度の格差が認められた。



	SRP	Pcur	再SRP	再Pcur
2013年	217.2	13.3	60.9	2.1
2014年	166.8	7.0	56.3	4.3
2015年	222.2	8.2	100.0	4.4

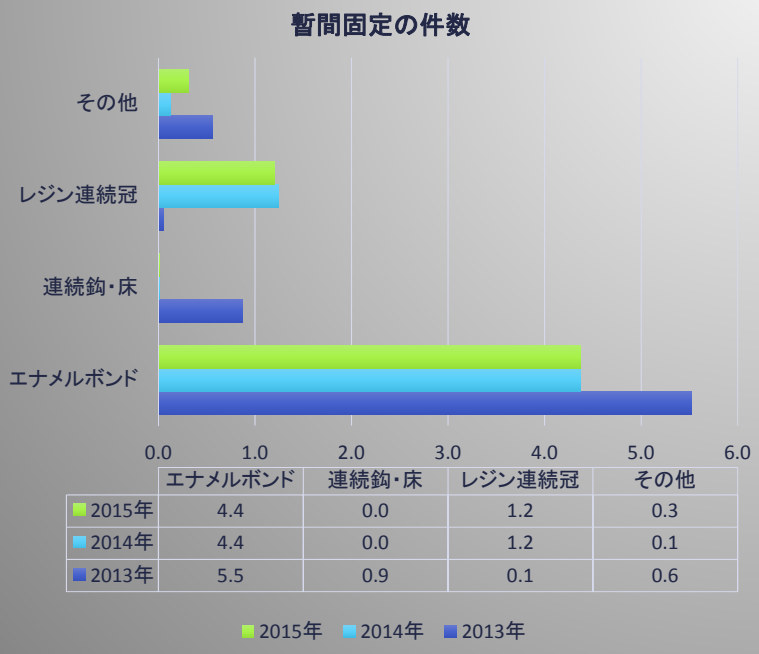
歯周病検査

今回の検査では2013、14年と比べて精密検査の頻度が多く認められた。



暫間固定の比較

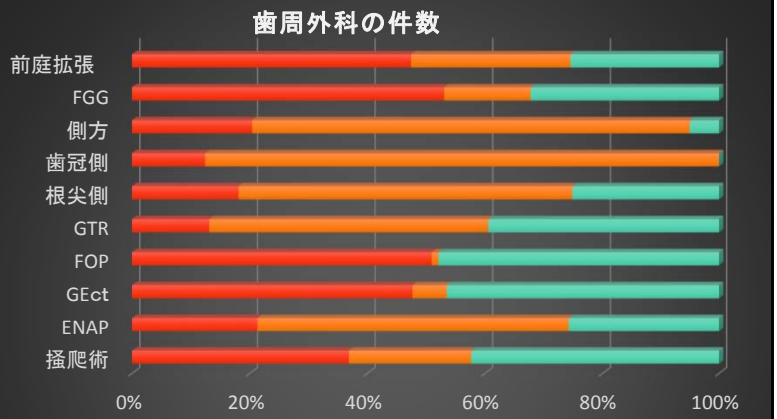
いずれの年もエナメルボンドの比率が高く、続いてレジン連続冠が多かった。



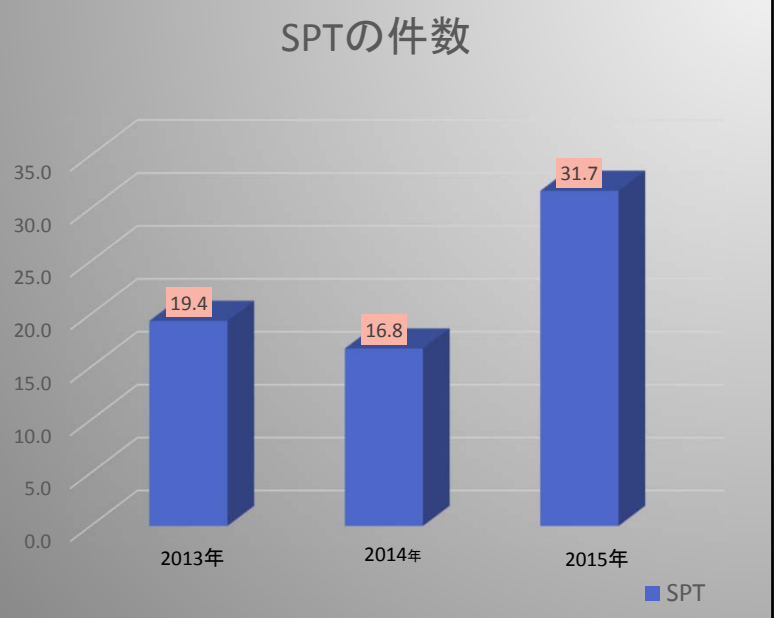
	エナメルボンド	連続鈎・床	レジン連続冠	その他
2015年	4.4	0.0	1.2	0.3
2014年	4.4	0.0	1.2	0.1
2013年	5.5	0.9	0.1	0.6

歯周外科の比較

2013年、15年は似通った傾向を示しているが、2014年は歯冠側移動術の頻度が著明に高く、2015年では逆に同手術がほとんど算定されていなかった。



	掻爬術	ENAP	GEct	FOP	GTR	根尖側	歯冠側	側方	FGG	前庭拡張
2013年	5.6	0.5	1.0	5.1	0.1	0.1	0.6	0.1	0.2	0.3
2014年	3.1	1.3	0.1	0.1	0.2	0.4	4.2	0.4	0.1	0.1
2015年	6.4	0.6	0.9	4.8	0.2	0.2	0.0	0.0	0.1	0.1

SPT件数の比較

本年が特に多くなっているが政府の施策もあり、今後は増加してゆくものと考えられる。